

フォルケホイスコーレの基本価値の類型化と自己評価[†]

原 義彦*

秋田大学教育文化学部*

本稿は、デンマークの成人教育施フォルケホイスコーレの基本価値の類型化を試みるとともに、基本価値に基づいて行われる学校の自己評価の実態と特徴を明らかにすることを目的としたものである。この中で、フォルケホイスコーレの基本価値の記述に類出する語には、「生」「共同体」「民主主義」「責任」「尊敬」があることを明らかにした。さらに、基本価値の記述の内容と具体性のレベルから基本価値の4類型を提示したところ、基本価値の記述が36.8%の学校では教育理念や教育観であり、44.1%の学校では教育的提供に関わる教育方針であることが示された。また、基本価値に基づく自己評価は、全般的には教員と学生間や教員間の討論・会話によって行われており、それとともに多くの学校で学生や教職員を対象に基本価値の内容を含む質問紙調査を組み合わせて行っていることが明らかになった。

キーワード：フォルケホイスコーレ、基本価値、自己評価、対話、成人教育、デンマーク

1 本研究の目的と方法

1.1 研究の目的

本稿は、デンマーク発祥の成人教育施設であるフォルケホイスコーレ (folkehøjskole) の各校が示す基本価値 (værdigrundlag) の類型化を試みるとともに、この基本価値に基づいて行われる学校の自己評価 (selvevaluering) の実態と特徴を明らかにすることを目的とする。

フォルケホイスコーレは、19世紀半ば、グルントヴィ (N.F.S.Grundtvig) らの提唱により、デンマークの民主化や敗戦によって荒廃した国土の復興と郷土愛の向上などのため、農村青年の教育を目的として設立された成人教育施設である¹。現在、フォルケホイスコーレは、デンマークの成人教育のうちの自由成人教育の一機関として位置付けられている。また、デンマークフォルケホイスコーレ協会 (Folkehøjskole Forening i Danmark) (以下、FFD

とする。) によると、2000年には94校あったフォルケホイスコーレは2015年には66校まで減少しているが、2017年には3校の増加がみられ、2018年には69校となっている (表1)。このように2000年以降の学校数の推移をみれば減少傾向にあるが、それぞれの年の開校と閉校の状況を見ると、単純に学校数が減少しているのではなく、新規に開校された学校は2000年以降では13校あることがわかる。

さらに、フォルケホイスコーレは17歳6ヶ月以上であれば、性別、年齢、国籍を問わず無試験で入学が可能となっている²。ここで提供される学習機会には、長期コースと短期コースのプログラムがある。長期コースは、新年度が始まる8月中旬から12月までと、1月から6月中旬までのおよそ5ヶ月間の開設が一般的である。学習内容に決められたものではなく、デンマーク語、歴史、文学、哲学、政治、メディア、ジャーナリズム、体育、音楽、演劇、陶芸など多岐にわたっており、それらを組み合わせたプログラムが提供されている。学生の年齢構成では、20歳代前半が全体の多くを占めている。一方、短期コースは7~8月や12月など年内の一時期に、一つのテーマで一週間程度の期間で開催されることが多い。例え

2019年1月7日受理

[†]Yoshihiko HARA*, Classification of core values and self-evaluation of Danish folk high school

*Faculty of Education and Human Studies, Akita University

表1 2000年以降の学校数

年	開校数	閉校数	学校数
2000	0	3	94
2001	0	6	88
2002	1	2	87
2003	0	0	87
2004	0	5	82
2005	1	3	80
2006	1	1	80
2007	1	1	80
2008	0	2	78
2009	1	2	77
2010	1	2	76
2011	1	5	72
2012	0	3	69
2013	0	0	69
2014	1	2	68
2015	0	2	66
2016	1	1	66
2017	3	0	69
2018	1	1	69

注) 歴史的にデンマークのフォルケホイスコーレと関わりのある Jaruplund Højskole (フランスブルグ (ドイツ)), Nordiska Folkhögskola (ヨーテボリ (スウェーデン)) の2校を含む。
(出典) FFDのウェブサイト (<https://ffd.dk/>) に掲載の統計資料をもとにして作成。

ば、自転車(サイクリング)、絵画、ヨガ、旅行などをテーマにしたプログラムがそれぞれ開設されている。短期コースの受講者は、20歳代から80歳代以降まで幅が広い。加えて、長期コースも短期コースも全寮制であるのがフォルケホイスコーレの特徴である。学生は他の学生とプログラムの全期間、生活を共にしながら、学習を行っている。

FFDは、フォルケホイスコーレが提供する内容、受け入れる学生の年齢などから学校を7つに分類している。その分類とは、一般的な教育内容を提供している普通・グレントヴィ系、音楽やデザイン、演劇などを中心とする専門特別系、体育やスポーツを中心とする体育・スポーツ系、キリスト教に関わる内容を中心とするキリスト教系、ダイエットなど生活スタイルに関わる内容を中心とするライフスタイル系、概ね60歳以上の高齢者を対象とする高齢者系、16歳から在籍可能な青少年系である。

表2は、2012/13年度以降の年間の学生数を長期

と短期のコース別に示している。これを見ると、長期コースの学生数は年々増加し、2016/17年度は1万人を超えている。学校数が減少している中において、長期コースの学生が増えていることから、全体として各学校の在籍者数は増加傾向にあると考えられる。また、短期コースの学生は3.2万人から3.5万人の間を推移している。これらを合計すると、最も新しい2016/17年度には約4.3万人がフォルケホイスコーレのプログラムで学んでいる。

表2 学生数 (人)

年度	長期コース	短期コース	計
2012/13	9,276	34,373	43,646
2013/14	9,293	32,093	41,386
2014/15	9,733	35,038	44,771
2015/16	9,966	34,581	44,547
2016/17	10,065	32,894	42,959

(出典) 表1に同じ。

このようなフォルケホイスコーレの自己評価に関して、2003年の「フォルケホイスコーレ・エフタスコーレ・家政学校・手芸学校(私立寄宿学校)法(Lov om folkehøjskoler, efterskoler, husholdningsskoler og håndarbejdsskoler (frie kostskoler))」の改正により、各フォルケホイスコーレが目指す価値を自身のウェブサイトで公開すること、その価値に基づいた評価を少なくとも2年に一度行うことが義務づけられた。この規程は、2013年12月改正(2014年8月発効)のフォルケホイスコーレ法(Lov om folkehøjskoler)にも引き継がれており、現在は、同法第17条で、「学校は、学校の基本価値を自身のホームページで公表する。学校委員会(Skolens bestyrelse)は、学校の基本価値に基づいて学校活動の評価計画を作成しなければならない。学校は、少なくとも2年に一度、この評価を行わなければならない。」とされている。

本稿では、フォルケホイスコーレの評価研究の一つとして、現在、フォルケホイスコーレの自己評価がどのように行われているかについて、その実態を明らかにしたいと考えている。また、フォルケホイスコーレ法が示すように、フォルケホイスコーレの自己評価は学校の基本価値に基づいて行われるため、基本価値の内容分析が必要となる。そこで、ここでの研究課題を次のように設定した。すなわち、

①フォルケホイスコーレの基本価値にみられる内容的な特徴を明らかにし、その類型化を行うこと、②フォルケホイスコーレにおける自己評価の実態とその特徴を明らかにすること、である。

1.2 先行研究の検討

本研究課題に関わる先行研究には、Peterによる私立寄宿学校の自己評価の視点と方法についての研究³と、デンマーク教育省が2006年に公表した私立寄宿学校の基本価値と自己評価に関する調査結果⁴がある。前者は、2003年の私立寄宿学校の法改正によって、各学校の自己評価が規定されることを受けて、私立寄宿学校の自己評価のモデルとして、目標達成評価 (Målopfyldelseevaluering)、インパクト評価 (Virkningsevaluering)、利用者志向の評価 (Brugerorienteret evaluering)、熟議民主主義的評価 (Deliberativt demokratisk evaluering) の4つのモデルを提示している。このうち、フォルケホイスコーレの評価は、熟議民主主義的評価モデルに基づくものとされている⁵。熟議民主主義的評価モデルの中心になるのは対話形式 (dialogmode) である。これは、相互理解と尊敬の視点を持った関わりを達成するねらいのもと、各々が主題と評価の目的に関わる考えを他者に提示していく方法である。これを評価者が評価する。手法としてフォーカスグループ、質問紙、フューチャーワークショップなどから選んで行うとされる⁶。この研究は自己評価のモデル提示が主要な意図であったため、実際の評価の動向と現状の提示は行っていない。

また、後者の教育省の調査は、フォルケホイスコーレを含む私立寄宿学校25校 (エフタスコレ16校、フォルケホイスコーレ7校、家政学校・手芸学校2校) を抽出し、私立寄宿学校の自己評価が法制化された直後の2004と2005年に、基本価値の設定状況、自己評価の実施状況を把握することを目的に行われたものである。ここでは、フォルケホイスコーレと他の学校が区別されて示されていないため、フォルケホイスコーレのみの状況を知ることはできないが、調査した学校の全体的な状況について事例を提示しつつ、結果として次のようにまとめられている。学校価値については、「ほとんどすべての学校で基本価値が採択され公表されている」「3分の1の学校で基本価値を示す言葉が設定されている」「学校委員会の議事録には同意された基本価値の採択が全

てのケースで記載されているわけではない」「基本価値の間には常に一貫性があるわけではない」などである。また、自己評価については、「未だ多くの学校が評価を行っていない」「監査人が誤ったチェックをしていたケースがあり、正しいチェックマークが法律の求める最小要件を満たしている保証はない」などである。

この結果は、自己評価の法制化直後の実施状況を把握し、その後の展開に生かそうとしていた点に意義がある。他方、この研究には、対象がフォルケホイスコーレのみでないことと、フォルケホイスコーレの基本価値と自己評価の全国的な状況とその特徴が不明なことなどが指摘できる。加えて、この調査が行われた2005年以降の状況を示す研究は見当たらない。

1.3. 研究方法

これらの研究課題を解明するため、2つの調査を行った (表3)。調査1はフォルケホイスコーレの基本価値の分析のための調査で、68校すべての学校の基本価値に関する資料収集を、主として各校のウェブサイトを通じて行った。また、調査2はフォルケホイスコーレの自己評価の実態を明らかにするための調査で、全68校のうち35校を訪問し⁷、学校長等へのインタビューを行った。

表3 調査の概要

	調査1	調査2
目的	各フォルケホイスコーレの基本価値の分析と類型化 (主に研究課題①のため)	フォルケホイスコーレの自己評価の実態と特徴の解明 (主に研究課題②のため)
方法	主として各フォルケホイスコーレのウェブサイトを通じた収集、および学校訪問を通じた収集	フォルケホイスコーレ訪問による学校長等へのインタビュー
調査時期	2017年3～6月	2017年4月～8月
調査内容	基本価値についての記述及び内容	基本価値とその設定方法、基本価値の具体的実践例、自己評価の方法等
調査校数	68校 (調査時点の全校)	35校 (調査時点の全校68校中)

2 フォルケホイスコーレの基本価値の定式化と自己評価の方法

2.1 基本価値の概念と策定の枠組

調査結果の分析の前に、ここで検討するフォルケホイスコーレの基本価値の概念と各フォルケホイスコーレにおける基本価値の定式化の考え方について整理しておきたい。

2003年の「フォルケホイスコーレ・エフタスコレ・家政学校・手芸学校（私立寄宿学校）法」の改正によって私立寄宿学校の自己評価が義務化されることを受けて、2001年、教育省の協力のもと、デンマーク教育大学（当時）のToveらによって私立寄宿学校の基本価値の概念、基本価値の定式化、自己評価の方法に関する著書⁸が刊行された。ここでは、その序文で「私立寄宿学校に関する新しい法律は、学校を価値に基づく組織として活性化する機会として捉えてきた。法律によって基本価値と自己評価が求められているため、学校はその基本価値に基づいた出発点を明示的かつ一般的に理解可能な言語で表現することが課題となっている。」⁹としている。その上で、学校の基本価値とは、学校の目的（formål）、実践（praksis）、自己評価（selvevaluering）の基盤となるものであり、一般的な言葉で表現され、公開されるものとされている¹⁰。そのため、基本価値は学校の目的よりも前に示されるものであり、マニフェストでもであると述べられている。さらに、基本価値で重要なことは、自己選択的なことであるとされた¹¹。これは、学校自らが価値の選択と決定を行うという意味で、法律に準拠したものである限り、基本価値の定式化は学校の自由と自治に委ねられているという考え方によるものである。その一方で、基本価値の定式化に当たって満たすべき要件も提示されている。

この考え方は、現在のフォルケホイスコーレ政策にもつながっており、その内容は、教育省とともにフォルケホイスコーレを所管する文化省から出されているフォルケホイスコーレの基本価値のデザインに関する説明文書¹²で見ることができる。

この中では、実践、目的、基本価値の順に、その定式化の際の留意点が次の通り示されている。

実践

- ・ 学校が日常生活をどのように組織化しているかの説明は、通常、学校の実践を示すものである。

- ・ 実践は、ほとんどの場合、現代的な言語で記述される。
- ・ 実践についての記述は、基本価値に基づいて示されるのではなく、個々のコースの計画に基づいて示されなくてはならない。

目的

- ・ 学校が何を望んでいて、どのような目標を設定しているかの記述は、通常、学校の目的を示すこととなる。
- ・ 目的は、本質的には学校の意図を宣言するものである。
- ・ 目的は、ほとんどの場合、未来志向の言葉で記述される。

基本価値

- ・ 学校の基本価値は、学校が目的を設定し、実践方法を設定した理由を示している。
- ・ 基本価値は、学校運営の根拠となる前提条件である。これは、そこに学校に基づいているという考えである。
- ・ 基本価値の変更には学則の変更が必要になるため、基本価値は長期的である必要がある。
- ・ 価値基準は、ほとんどの場合、時代を超えた言語で記述される。

文化省の説明文書には、基本価値の定式化に関わるその他の留意事項として、次の5項目が挙げられている。

- ・ 基本価値は、学則にそのまま登録できるように、簡潔かつ一般的な言葉で策定する必要がある。
- ・ 学校が基本価値を深めたい場合は、学則の付録または教育計画の紹介として記載することができる。
- ・ 例えばインナーミッションのような宗教的または教育的な方向性に言及するだけであったり、学校がグルントヴィ的／コル的であるというのでは不十分である。
- ・ 基本価値とその採択は、学校委員会の議事録に記載されている必要がある。
- ・ 基本価値は、これに基づいて学校の活動を評価できるように策定されなければならない。

各フォルケホイスコーレでは、これを参考にして、学校の基本価値、目的、実践を定式化していると考えられる。

2.2 自己評価とその方法

Toveらは、学校の自己評価を「学校が自尊心の基礎に基づいて確立した目標に基づいて学校が事業を評価すること」¹³と述べている。さらに、Toveらは、基本価値、目標、活動等についての自己評価作業のための調査方法として、質問紙調査とインタビュー調査の方法を例示している¹⁴。

一方、教育省は、自己評価について基本価値と関連づけた評価を行うことを求めつつも、誰が評価を行うか、どのように評価を行うか、評価結果を生かして学校が何をすべきかについては学校自身が決めることであるとしている。

3 調査結果

3.1 基本価値の記述の実例

調査1に基づいて、フォルケホイスコーレ68校の基本価値を、各校のウェブサイトにおける記載、学則（ウェブサイト上、または訪問調査による収集）における記載から収集した。ここでは、その結果を述べる。

それぞれの記述の内容、形式、量ともに多様であった。全てのフォルケホイスコーレの基本価値を示す紙幅はないため、その一例として、Den Rytmske Højskoleの基本価値を以下に示すことにする。

私たちの3つの基本価値

Rytmske Højskoleは、3つの基本価値に基づいて学校全体を構築しています。

「共同 (Fælles)」

私たちはといえば、私たちが私たちの生活全体を通じて他の人々に深く依存しており、そして彼らとは仲間であるということを明確にすることです。

「個人 (Personlige)」

これは、私たちが自分自身の生き方に責任をとることを学ぶ必要があるという事実に基づいています。

「プロフェッショナル (Faglige)」

私たちは、人々が専門性を持って成長することが重要であると信じます。このように、「世界」はより見通しのあるものになり、「良い人生」の可能性はより大きくなります。

これら3つの基本価値は、音楽の世界における三和音のようなものです。これらは互いの前提条件であり、そしてそれらのどれも個別に成り立つことは

できません。この三和音は学校のロゴの図柄に表現されています。

基本的な価値を備えた私たちの活動は、ビジョン、プロセスと価値と呼ぶために選んだもので表現されています。ビジョンは私たちが見てきた目標であり、プロセスは私たちがその目標に到達するための道であり、私たちの価値は私たちが行動したい存在、行動する出発点となる存在です。

Den Rytmske Højskoleは、その校名からも推察されるように、音楽を中心としたプログラムを提供している専門特別系のフォルケホイスコーレである。基本価値は、共同、個人、プロフェッショナルという3つの言葉と各内容で構成され、後半にそれらをまとめる記述を加えている。

Den Rytmske Højskoleの基本価値の内容は、個人としての生き方と他者とともに生きる生き方の指針を示しており、デンマークのフォルケホイスコーレが持つねらいと重なっていると言える。また、Den Rytmske Højskoleは音楽活動を中心とする学校であるが、創作や演奏などの音楽技能の習得・向上を基本価値とするのではなく、ここで掲げられているような基本価値をベースとしている点は、フォルケホイスコーレの在り様を提示しているとも言える。記述の形式については、Den Rytmske Højskoleの場合、基本価値を表す3つの言葉を用いて示し、それぞれの言葉が意味する内容を記述し、そのあとに、基本価値の全体を包括的に記述する構成となっている。基本価値を表すキーワードとも言える語を入れて示す方法は、他のフォルケホイスコーレにおいても数多くみられた。Den Rytmske Højskoleの記述全体の分量については、調査をした中では若干少ない部類である。

3.2 基本価値にみられる内容的特徴

次に、調査を行なった68校の基本価値の内容にはどのような特徴が見られたかを検討する。

ここでは、各校の基本価値の記述に共通してみられる語の出現状況を分析した。分析に当たっては、共通にみられる語がいくつの学校の基本価値で使われているかを計測することとした。その際、例えば、名詞 (demokrati) の形容詞 (demokratisk等) も同一語とした。また、基本価値の記述の中でのそれ

それぞれの語の使われ方の違いは無視し、キーワードとして使用されていても、文中で使用されている場合でも同じ扱いとした。また、同一の語が同じ基本価値の記述の中で1箇所だけ使用されていても、2回以上の使用であってもその違いは無視することとした。

表4は、出現状況の上位5位までの結果を示したものである。これによると、第一位は「生、生きること、または、生き方 (liv, livet等)」であり、全68校中54校(79.4%)の基本価値の記述の中でこの語が使われていることになる。これは、全体の約8割であり、一人一人が自分の生き方を考える場であるフォルケホイスコーレを裏付けることになった。第二位は「共同体 (fællesskab)」であり、これも37校(54.4%)という全体の半数を超えるフォルケホイスコーレの基本価値に見られる。ここでいう共同体は、フォルケホイスコーレの中で学生や教職員との共同体という意味とともに、使い方によっては、地域や社会における共同体という意味もある。いずれにおいても、他者との共同という意味を基本価値に含めているケースが半数以上あるということになる。第3位は「民主主義、または民主的 (demokrati等)」と「責任 (ansvar)」が同点で、いずれも35校(51.5%)となっている。これも全体の半数を超える学校数である。これは、フォルケホイスコーレが民主主義の考え方の普及と実践を重要視していることを示す結果と言える。「責任」については、社会の一員としての責任を果たすということや責任を持つということの基本価値に含めていると推察できる。第5位は、「尊敬 (respekt)」である。この語を使っている学校数は26校で全体の3分の1を超える程度であるが、これは他者を尊重するという意味であり、共同体や民主主義と通底するものである。

これらを通してみると、現在のフォルケホイスコーレが重視している価値を把握することができる。と同時に、「生、生きること、または、生き方」や「民主主義、または民主的」という点は、いまだ忘れられることなくフォルケホイスコーレの基本価値とされていることを示している。

表4 基本価値の記述にみられる言葉

共通して用いられる言葉	学校数 (%)
生、生きること、または、生き方 (liv, livet等)	54 (79.4)
共同体 (fællesskab)	37 (54.4)
民主主義、または、民主的 (demokrati, demokratisk等)	35 (51.5)
責任 (ansvar)	35 (51.5)
尊敬 (respekt)	26 (38.2)

3.3 基本価値の類型化

3.2では基本価値の記述に類出する語から内容の分析を行ったが、ここではさらにその内容と具体性のレベルの違いに着目して、基本価値の類型化を試みる。フォルケホイスコーレの基本価値の記述をその内容と具体性のレベルで捉えようと、次の4つの分類で捉えることが可能である。

類型1：フォルケホイスコーレの教育理念、教育観あるいは宗教観の記述を中心とした内容

類型2：フォルケホイスコーレの教育方針、教育的提供の内容あるいは教育環境の記述を中心とした内容

類型3：フォルケホイスコーレの教育方針(期待する学生の資質能力を含む)の記述を中心とした内容

類型4：フォルケホイスコーレの教育方針(地域社会への貢献を含む)の記述を中心とした内容

類型1は、フォルケホイスコーレの教育理念や教育観、あるいは宗教観が中心となっている基本価値の記述の類型で、記述内容のレベルが4類型の中では最も理念的と言える類型である。この類型に入る例として、次のEgå Ungdoms-Højskoleの基本価値がある。

私たちの価値

大人と若者が目の高さで出会う－私たちはそれを「調和のとれた」人と見ます。

愚かな質問はありません－あえて質問して自分だけが答えを得て賢くなることのできる場合にのみ。

偏見は崩れ落ちます－皆のための場所があります。

若者は他者と一緒に成長します－世界を見る他の方法に関しては。

あなただけで遠くに行くことができます－一緒に私

私たちは星に到達することができます。

類型 2, 3, 4 は、いずれもフォルケホイスコーレの教育方針の記述が中心となる基本価値の類型である。このうち、類型 2 は、教育方針や学校が提供する内容、教育施設や設備等の記述が中心となっている類型である。この類型に含まれる例として、次の Grundtvigs Højskole の基本価値がある。

Grundtvigs Højskole は、人道主義的で民主的な伝統に基づく啓発と自由志向についてのグルントヴィの考えに基づいています。私たちは、歴史と文化に関する知識が、今日世界に向けることのできる最も重要な前提条件であると考えています。

私たちは、啓発、教育、そして民主的な市民権の基礎として、思考と会話の自由の空間を作り出します。そこでは、言い争いと身構えが寛容という点から破られます。

私たちは、教育、経験、食事、そして家庭的で広々としたことを特徴とするコミュニティを中心とした社会化を重視しています。教えることは好奇心、関わり、そしてプロ意識によって支えられています。それは学生に挑戦し、没入と新たな視点への道を切り開きます。

学校は、生活の中で役に立つことができる一般的な教育とスキルを提供します。

これには学校の教育理念に関わる内容が含まれてはいるが、学生に提供する教育や生活空間に関わる内容も含まれている。

さらに、類型 3 は、フォルケホイスコーレの教育方針の記述が中心であるが、学生に対する期待や習得して欲しい資質能力等の記述を含んでいる基本価値の類型である。この類型には、次の Krogerup Højskole の例がある。

基本価値

Krogerup Højskole は、民主主義の強化と人間の一般的な教育の発展のために活動しています。そして、それはすべての能力が注ぎ込まれる場で、人間全体の考えとして理解されています。

社会がますます細分化され、知識が専門化されている現代においては、この知識を展望に入れ、そして特定の分野にわたる自己批判的思考の能力を広げることが重要です。Krogerup は国際的な視野を持った政治的で創造的なホイスコーレで、若者が社会に貢献することができるように幅広い背景を持って教育をしたいと考えています。

私たちは責任を持ち、他の見解や文化に寛容で冒険心のある市民になるための、すべての若い人々の機会を発展させることに焦点を当てています。

私たちは、ハル・コック (Hal Koch) のように、民主的な思考と行動には価値概念に関する絶え間ない多様な対話が必要であると考えています。自由志向の感覚と想像力を持って、近くと世界の両方のコミュニティの利益のために行動したいという欲求を強化することは重要です。

Krogerup Højskole は、記述にも登場するハル・コックが初代校長を務め、伝統的に政治や社会に参画する人材の育成を行っている。これは、その学校の特徴が表れている基本価値と言える。

最後に類型 4 は、フォルケホイスコーレの教育方針の記述が中心であっても、地域社会への貢献の内容を含む類型である。この類型には、次の Højskolen Østersøen の基本価値が属すると考えられる。

Højskolen Østersøens の目的は、私立寄宿学校に関する現行の規則の範囲内でフォルケホイスコーレを運営することです。

特にホイスコーレはデンマークとバルト海地域の近隣諸国との間での文化的・大衆的發展ならびに環境および商業的課題の解決に関する協力の促進に貢献しなければなりません。

他の人々を理解するための前提条件は、彼ら自身の文化に根ざしていることです。したがって、授業時間の一部は、デンマークの歴史やデンマークの民主主義、そしてデンマークの人々の文化的基盤の他の部分について生徒を紹介するために使用する必要があります。ドイツの状況の教育に関する限り、学

生はドイツの歴史、今日のドイツ社会について知っておく必要があります。ホイスコーレはそれからEU、バルト諸国および北欧の人々の状態に学生を慣れさせることを目指さなければなりません。

新しい大規模国家社会、すなわち最も近い隣国としてのドイツでは、将来の世代は人気のある文化的な分野と教育および雇用の分野において大きな課題に直面するでしょう。東ヨーロッパの人々の解放は、すべての州とバルト海地域の人々の間でまったく新しい機会を提供します。

Højskolen Østersøenは、ユトランド半島のドイツ国境に近い地域で、かつ、眼前にバルト海を臨む場所に位置している。上のように基本価値に地域社会への貢献が盛り込まれるのは、このようなフォルケホイスコーレの地理的環境によるものと考えられる。

このようにして、68校の基本価値を4つの類型に分類してみたところ、表5のような結果となった。これによると、類型別にみた学校数では、学校価値の記述が最も理念的といえる「1 フォルケホイスコーレの教育理念、教育観あるいは宗教観の記述を中心とした内容」の学校は25校（36.8%）であった。また、教育方針とともに、それを具現化するための教育的提供（授業、講座等）や教育的環境（教室環境、居住環境等）にかかわる内容の「2 フォルケホイスコーレの教育方針、教育的提供の内容あるいは教育環境の記述を中心とした内容」は30

表5 基本価値の類型

基本価値の内容と具体性のレベルによる類型	学校数 (比率)
1. フォルケホイスコーレの教育理念、教育観あるいは宗教観の記述を中心とした内容	25 (36.8%)
2. フォルケホイスコーレの教育方針、教育的提供の内容あるいは教育環境の記述を中心とした内容	30 (44.1%)
3. フォルケホイスコーレの教育方針（期待する学生の資質能力を含む）の記述を中心とした内容	9 (13.2%)
4. フォルケホイスコーレの教育方針（地域社会への貢献を含む）の記述を中心とした内容	4 (5.9%)

校（44.1%）あり、これが全体の中では最も多いことが明らかになった。この2類型で、学校数全体の80%を超えている。一方、学校数は少ないものの、教育方針に期待する学生の資質能力を含む類型3には9校（13.2%）、地域社会への貢献の内容を含む類型4には4校（5.9%）が当てはまっている。

3.4 自己評価の調査結果

表6は、全68校中、自己評価の実施方法等についてのインタビュー（調査2）を行なった35校各校について、自己評価の方法の主な内容や特徴的な内容を略記したものである。

これを見ると、いずれの学校においても自己評価は行なわれており、その方法として多くの学校が採用しているのが学生との対話や討論によるものである（学校番号1,17,23など）。討論による方法も学生主体の討論に1～2名の教員が付いて行う形態（同12,21）、学生と教職員が全体で討議する形態（同3,16）、教職員だけで討論する形態（同7,10,11など）がある。表中に記載がない場合でも、「授業や教室において日常的に学生と対話を通じて自己評価を行なっている」「常に教員間で討議をしている」という学校がほとんどであった。また、多くの学校が学生に対して質問紙調査を行っている。しかし、質問紙調査の内容に基本価値の内容を含めて実施している学校（同5, 8, 19, 28など）もあれば、そうでない学校（同17, 34）もある。同9のように、質問紙調査でも、基本価値の質問は自由記述が良いとするところもある。その一方で、同21のように、質問紙等による記述の方法は行わないという学校もある。このほか、個別の方法として、倫理会計（同6）、SWOT分析（同32）などが見られた。

これらを整理すると、自己評価で行われている方法は、1) 教員から学生への口頭での質問による方法、2) 学生同士や教師と学生による討論、対話による方法、3) 学生への質問紙による方法、4) 教員とその他のすべての職員、学校委員会等との討論による方法、5) 個別の方法がある。

各学校では、これらのすべて、あるいは一部の方法を組み合わせて自己評価が行なわれている。例えば、同3では、基本価値の内容について学生に質問紙調査を行い、その結果を学生、教職員、学校委員会で討議を行っている。このような質問紙調査と討論の組み合わせにより自己評価を行っている学校は

表6 自己評価についてのインタビューの結果

学校 (番号)	学校の 類型	基本 価値 の類 型	自己評価の方法 (主な内容, 特徴的な内容を略記)
1	A	4	会話, 対話を通じた評価.
2	A	3	基本価値を構成する各テーマごとに別れた教職員チームによる評価.
3	A	2	学生には基本価値を伝えている. 学生に質問紙調査を行い, 結果を教職員, 学生, 学校委員会で討議する.
4	A	2	学生への質問紙による調査.
5	A	2	全ての基本価値について, 学生に質問紙調査を行う. 教員, 職員にも質問紙調査. 会話による評価, 討議による評価.
6	A	1	倫理会計. 学校がその後どのようにするかを知ることができる質問紙調査.
7	A	2	学生への満足度調査 (0-5段階). 学生の活動や諸事項について教員による討議.
8	A	2	基本価値を修正した内容を含む質問紙調査.
9	A	4	質問紙調査. (基本価値に関しては自由記述が重要)
10	A	2	長期コースでは, 教員のミーティングと学生のミーティングを実施し, 継続的に評価を行い, 第8週, 15週, 20週に評価をまとめ, 討議を行う. 短期コースでは, 受講者が最初に期待を明らかにし, 終わりに評価を行う. この結果について職員によるミーティングを実施.
11	A	1	教職員全員の討議による. また, 常に学校委員会とも討議している.
12	A	3	学期末に, 8~9名程度の学生グループに1名の教師がついて討議する. 質問紙調査も行う. 学生は最後に基本価値を知る.
13	A	1	学生の評価は口頭による. 自己評価は討議で行う.
14	A	2	評価システムを用いたデータ重視の評価を実施. 質の評価も同時に行っている.
15	A	2	学生にどうすれば良いアドバイスができるか, 物事をよりよくするにはどうするかについて職員で討議する. 基本価値を学生にはあえて伝えない.

16	A	1	質問紙調査を行う. その後, 2回の全体集会で日常生活について討論する. これとは別に, それぞれのクラスにおいて学生と教員による会話を通じての評価.
17	A	2	質問紙調査 (一般的な質問) で通常の状況を把握している. 基本価値に基づく評価は学生との対話で行う.
18	A	2	5つの基本価値に基づく評価は, 職員が5グループに別れて行った.
19	A	1	1つの方法は基本価値を含めた質問紙調査を行う. 第2の方法は, 特定の話題を決めて, 学校委員会と一緒に職員で討議する.
20	A	1	2年に一度, 選択した基本価値について学校委員会と一緒に評価を行う.
21	A	3	学生の小グループを作り, 教員を2名つけて多くのことについて討議する. 質問紙等の紙は一切使用しない.
22	F	1	毎年, 基本価値を1つ選んで教員, 学生, 全職員で評価を行う. 方法は多様で, 質問紙, インタビュー, 観察など.
23	F	1	学期中の評価は学生グループへの質問や職員のミーティングで行う. 学期末の評価は質問紙調査と, 学生グループとの討議によって行う. 短期コースの評価は, 受講者への質問紙調査で行う.
24	F	3	学生への自由記述の調査を実施.
25	F	2	異なるレベルごとにワークショップを通じて討議する. 教員のミーティングや非常勤講師による観察によっても行う.
26	F	3	学期末に, 良かった点やより良いと感じたことについて討議を行う. 学生には聞き取りだけを行う.
27	G	3	学生, 教員, その他の職員に対して, 活動について, 満足度について, 達成度について, 学校のコミュニティがうまくいったかについて質問する.
28	G	2	学生に対して基本価値の内容も含んだ全般的な質問紙調査を行う.
29	G	1	基本価値について学生への質問紙調査.
30	G	4	2年に一度, 具体的な目標に基づいた評価を小グループに別れて討議する. 質問紙調査も行う.
31	K	2	教員による観察とミーティング. 学生への質問も行う.

32	K	1	SWOT分析を行い、ビジョンプロセスを検討する。教員を6分野に分けて、分野別に検討する。学生への質問紙調査も行う。
33	L	2	小グループによる討議。
34	S	1	全般的な質問を質問紙調査で行う。基本価値に基づく評価は、教師による会話を通じて頻繁に行う。
35	U	1	学校の向上に向けて全般的な質問を質問紙調査で行う。基本価値に基づく調査は、コンサルティング機関の協力を得て、学生への質問や戦略分析、効果分析などを通じて行う。

注) 学校の類型は次の通り。A:普通・グレントヴィ系, F:専門特別系, G:体育・スポーツ系, K:キリスト教系, L:ライフスタイル系, S:高齢者系, U:青少年系

多数ある。同22では、質問紙調査、インタビュー、観察などを組み合わせた評価が行われている。

3.5 自己評価の方法：Den Internationale Højskoleの場合

ここでは、自己評価の例として、Den Internationale Højskole（以下、IPCとする¹⁶⁾）の自己評価の方法を示すことにする。IPCは1921年、第一次世界大戦後の平和への取り組みとして、異なった国々からの人々を集め、デンマークのフォルケホイスコーレ方式で勉強し、暮らしを共にするという考え方によって創設された。現在もその考え方が継承されている。一般にフォルケホイスコーレは在籍者のうちデンマーク人が半数以上であることが条件であるが、IPCは特別に許可されており、留学生が半数以上を占めている。

IPCの基本価値には、人権重視の立場から、「尊敬と開放」「男女平等」「民主的協議」「命への畏敬と非暴力」「コミュニティと社会的責任の促進」「持続性」が掲げられている。聞き取り調査によると、教職員は学生に対して、入学の当初から、また、日常において基本価値やその意味内容を解説して、伝えているという。

自己評価は、記述による方法、会話（言語）による方法、討論による方法によって行われている。記述による方法は、年2回、各学期の終わりに学生に対して基本価値に関する内容について、質問紙調査を行なっている。質問紙によると、質問項目は、「自分とは異なった文化、視点、意見に対してより寛大

に、また敬意をもつようになった」「男女平等の価値をより認識することになった」「共同体に影響のある事項について民主的協議があった」「他者との付き合いの中で命への畏敬や非暴力を支持することの価値の必要性をより認識した」「共同体やより大きな社会により深い責任意識を持ったり、他者の存在と必要性についてより敏感になった」「コミュニティの資源を無駄にすることなく大切に必要性をより意識するようになった」であり、これらに同意するかについて5段階による回答と自由記述による回答を求めている。また、基本価値についての質問紙による調査は、教員、および学校の全職員に対しても行われている。例えば、教員には、「IPCの基本価値は、あなたの授業や教育に関わって役立ち、また重要ですか。」という質問がされている。さらに、全職員向けには、6つの基本価値のそれぞれについて、IPCが促進しているかどうかを尋ねている。

会話による方法は、学期末に学生を9グループ（1グループ約10名）に分け、各グループに1名の教員を配置し、各学生にインタビューを行う形式をとる。質問内容は、学校生活を楽しめたか、IPCで最も重要だったことは何か、学習の成果は何か、などである。

討議による方法は教職員が行うもので、記述による調査の結果、会話の結果をもとに、討論を通じて基本価値の実現や実施の状況の評価を行ない、さらには、その後、学校は何をすべきか、何ができるかを考えている。

4. 考察

4.1 基本価値の類型化

これまでの分析から考えられることをいくつか指摘してみたい。まず、基本価値の類型化に関わる分析を通じて、その成果と更なる課題を検討する。フォルケホイスコーレの基本価値は、全般的な傾向として、いくつかのキーワードが用いられながら、学校の教育理念、教育方針として定式化している学校が多いことが明らかになった。また、その内容の具体性のレベルには幅があり、4つの類型に分類することができた。このような具体性のレベルによる類型に分けられる理由の一つに、各学校における基本価値の捉え方が多様であることがあげられる。基本価値を学校の理念として捉える学校がある一方で、それを目的、あるいは目標として捉えている学校もあ

る。このような基本価値の捉え方と、それに基づく基本価値の定式化プロセスの違いによって、基本価値の内容と記述が異なってくる。さらに、これによって、自己評価の方法にも差異が生じてくると考えられる。

例えば、今回の調査では、フォルケホイスコーレの基本価値の類型では、教育理念、教育観、あるいは宗教観の記述を中心とした基本価値を定式化している学校が全体の36.8%あった。その一例は3.3で示したが、類型1のような抽象度の高い基本価値の場合、それに基づいた評価は、どのように行われるのだろうか。基本価値を基盤として、具体的な目的や実践の内容があるので、それを評価しているといえればそれまでであるが、基本価値に基づく自己評価をどのように捉えるかを考える必要があるのではないだろうか。

4.2 自己評価の方法

自己評価の一環として多くの学校で行なわれている学生との討論、対話、および教職員による討論という方法は、1.2で示した熟議民主主義的評価モデルの考え方に合致するものであり、フォルケホイスコーレにおいて歴史的に重視されてきている対話に基づいた方法である。しかし、自己評価の結果を明示するという点からすると、学校の基本価値に基づく評価のための討論や対話の結果を記述し、示すことは簡単ではない。ここで必要かつ重要なことは、そこでどのような討論がなされ、対話がなされたかであると考えられる。

この点からすると、質問紙による方法は、その結果を用いてフォルケホイスコーレの基本価値の具現化や達成状況を定量的に示す上で有効である。IPCでは、基本価値の内容に関わる質問項目を作成し、学生に対して年2回、各学期の終盤に調査を行い、その推移を定量的に捉える自己評価の作業を継続的に行っている。加えて、教職員に対しても質問紙による調査が行なわれている。このような継続的な自己評価の活動は、常に基本価値の実現を意識した教育や学校運営を促進することにつながっていると考えられる。

フォルケホイスコーレにおける自己評価にみられる主要な方法は上記に2つであるが、これらを進める際に、学生は必ずしも学校の基本価値を理解しているわけではない。このことに関しては、表6にも

記載したように、学生に積極的に学校の基本価値を伝えている学校と、あえてそれを伝える必要はないと考えている学校がある。学生にとって、学校の基本価値がどのような意味を持っているかについても考える必要がある。

さらに、学校の基本価値と自己評価の関連について触れておきたい。自己評価ではいくつかの方法を組み合わせて行なっている学校がほとんどであったため、基本価値の類型と自己評価の明確な関連を導出することはできなかった。しかし、これらの関連について、基本価値が理念的であるよりも、現実的、具体的である方が具体的な討論項目や質問項目を設定できる点で自己評価を行いやすいということがある。例えば、キリスト教系のフォルケホイスコーレの主要な基本価値は地域における宗教的貢献につながる内容であり、自己評価はその点に特化した内容で行いやすいと考えられる。その一方で、相矛盾することではあるが、基本価値をあまり具体的にはしない方が基本価値の内容を具体的に考えようとする意識を高めることになり、それが却って自己評価の自由度を高め、討論や質問紙の内容を幅広く取り上げる容易さを生み出しているということも指摘できる。

終わりに

最後に、本稿の課題を述べておきたい。第一に、フォルケホイスコーレの基本価値の類型と自己評価の関連の分析が十分にできなかったことがあげられる。本稿では、表6にそれぞれを示すところまでは到達できたが、未だその関連は見出せていない。第二に、そのためには、まだ行えていない約半数のフォルケホイスコーレの自己評価の調査を続けていきたいと考えている。さらに、第三の課題に、訪問調査で得られた自己評価にみられた倫理決算、評価システムを用いた評価法など、生涯学習施設の評価に用いることのできる評価方法の探索と解明を進めていくことがある。

¹ フォルケホイスコーレの設立過程に関する研究には、佐々木正治『デンマーク国民大学成立史の研究』、風間書房、1999が詳しい。

² フォルケホイスコーレほか、デンマークのリースクールの概要をまとめたものに、FFD他の発行による *The free Danish school tradition*, 2017があ

る。また、フォルケホイスコーレの実践的教育手法を示したものとして、Rasmus Kolby Rahbek & Jonas Møller, *HØJSKOLE PÆDAGOGIK*, Aarhus, KLIM, 2016がある。日本においてフォルケホイスコーレの学校生活や実態について詳しい文献には、清水満『生のための学校 デンマークで生まれたフリースクール「フォルケホイスコーレ」の世界』, 新評論, 1996などがある。

³ Peter Dahler-Lasen, *Selvevalueringens HVIDE SEJL*, Odense, Syddansk Universitetsforlag, 2003

⁴ Undervisnings Ministeriet, *Tilsyn med værdigrundlag og selvevaluering på frie kostskoler 2004 og 2005 (Revideret udgave)*, 2006.

⁵ Peter Dahler-Lasen, op.cit., p.69.

⁶ Ibid., p.157.

⁷ 訪問した35校は次のフォルケホイスコーレである。Askov Højskole, Bornholm Højskole, Brandbjerg Højskole, Brenderup Højskole, Den Internationale Højskole, Egmont Højskolen, Grundtvigs Højskole, Hadsten Højskole, Højskolen Østersøen, Jaruplund Højskole, Johan Borups Højskole København, Krogerup Højskole, Nordfyns Højskole, Nordiska folkehøjskolan, Odder Højskole, Rødding Højskole, Silkeborg Højskole, Testrup Højskole, Uldum Højskole, Vallekilde Højskole, Vrå Højskole, Den Rytmske Højskole, Engelsholm Højskole, Krabbesholm Højskole, Kunsthøjskolen i Holbæk, Ryslinge Højskole, Gymnastikhøjskolen i Ollerup, Idrætshøjskolen Bosei, Idrætshøjskolen Aarhus, Aalborg Sportshøjskole, Kolding Internationale Højskole, Luthersk Missions Højskole, Højskolen Skærgården, Senior Højskolen Nørre Nissum, Egå Ungdoms-Højskole.

⁸ Tove Heidemann, Randi Nygaard Andersen, Finn Thorbjørn, Anders Bech Thøgersen, *Værdigrundlag og selvevaluering på de frie kostskoler*, København, Danmark Pædagogiske Universitet, 2001

⁹ Ibid., p.5.

¹⁰ Ibid., p.12.

¹¹ Ibid., p.12.

¹² Kulture Ministeriet, *Udformning af værdigrundlag på folkehøjskoler*.

(https://slks.dk/fileadmin/user_upload/0_SLKS/Dokumenter/Folkehøjskoler/Vejledning_i_udformning_af_vaerdigrundlag_paa_folkehøjskoler.pdf, 2018年12月20日参照)

¹³ Tove et al., op.cit., p.15.

¹⁴ Ibid., pp.93-121.

¹⁵ Kulture Ministeriet, op.cit..

¹⁶ Den Internationale Højskoleは、英語でInternational People's Collegeと呼ばれ、IPCはその略称。

* 本稿は、JSPS 科研費 JP16K04528 の助成による研究成果の一部と、平成28年度秋田大学研究者海外派遣事業による研究成果の一部を含んでいる。

Summary

The purpose of this paper is to typify core values of Danish folk high school, and to make clear the situation of self-evaluation of this school. As a result, it became clear that the word live, community, democracy, responsibility, and respect often appear in the description of core values of each school. Further, after typifying the core values into 4 types, it became clear that 36.8% of core values classified into Type1 which is a type of most ideal core values including educational philosophy and idea and that 44.1% of those classified into Type2 which is an educational policy with educational supplies. Regarding self-evaluation based upon the core values, it was showed that main method of self-evaluation is discussion or dialog based upon principle of deliberative democracy, and questionnaire sheet containing question about core values.

Key Words : Danish folk high school, core value, self-evaluation, dialogue, adult education

(Received January 7, 2019)